

令和 7 (2025) 年度第 3 回みよし市地域公共交通会議 次第

日時：令和 8 (2026) 年 1 月 28 日 (水)

午前 9 時 30 分から

場所：みよし市役所 3 階 研修室 1・2・3

1 会長あいさつ

2 協議事項

(1) 令和 7 (2025) 年度生活交通確保維持改善事業評価 (案) について 【資料 1】

(2) 令和 8 (2026) 年度みよし市地域公共交通会議歳入歳出予算 (案) について
【資料 2】

(3) デマンド型交通の実証実験について 【資料 3】

(4) 乗継タクシー乗降場の新設について (トヨタスポーツセンター) 【資料 4】

3 報告事項

(1) 公共交通利用促進イベントの実施について 【資料 5】

(2) 「さんさんバスの日」の実施について 【資料 6】

4 その他

(1) 情報提供について

令和 7 (2025) 年度生活交通確保維持改善事業評価（案）について

地域公共交通確保維持改善事業による補助金の交付を受けている事業については、毎年度、協議会自らによる事業実施の確認、評価（以下「自己評価」という。）を行い、当該自己評価の結果を中部運輸局に報告することとされている。

1 地域間幹線系統と地域内フィーダー系統とは

(1) 地域間幹線系統

複数の市町村にまたがって走る広域的な路線バスは「地域間幹線系統」として、交通ネットワークの背骨となり、利用者の様々な移動を支える上で重要な役割を果たしている。

本市においては、豊田市と接続するさんさんバス「いいじゃんライン(拠点連携線)」及び「さつきライン(三好黒笹線)」の2路線が地域間幹線系統に位置付けられている。

(2) 地域内フィーダー系統

複数の市町村をまたがって走る路線が地域間幹線系統であるのに対し、自治体内を走行し、地域内の移動を支える路線が「地域内フィーダー系統」である。

地域内フィーダー系統は、地域間幹線系統を補完する路線として位置付けられており、地域内フィーダー系統として認められるためには、地域間幹線系統と接続している必要がある。

本市においては、「くろまつライン(福田明知線)」が市役所周辺で地域間幹線系統と接続することから、地域内フィーダー系統に位置付けられている。

2 事業評価の対象事業

(1) 地域間幹線系統補助

- ・いいじゃんライン（拠点連携線）
- ・さつきライン（三好黒笹線）

(2) 地域内フィーダー系統

- ・くろまつライン（福田明知線）

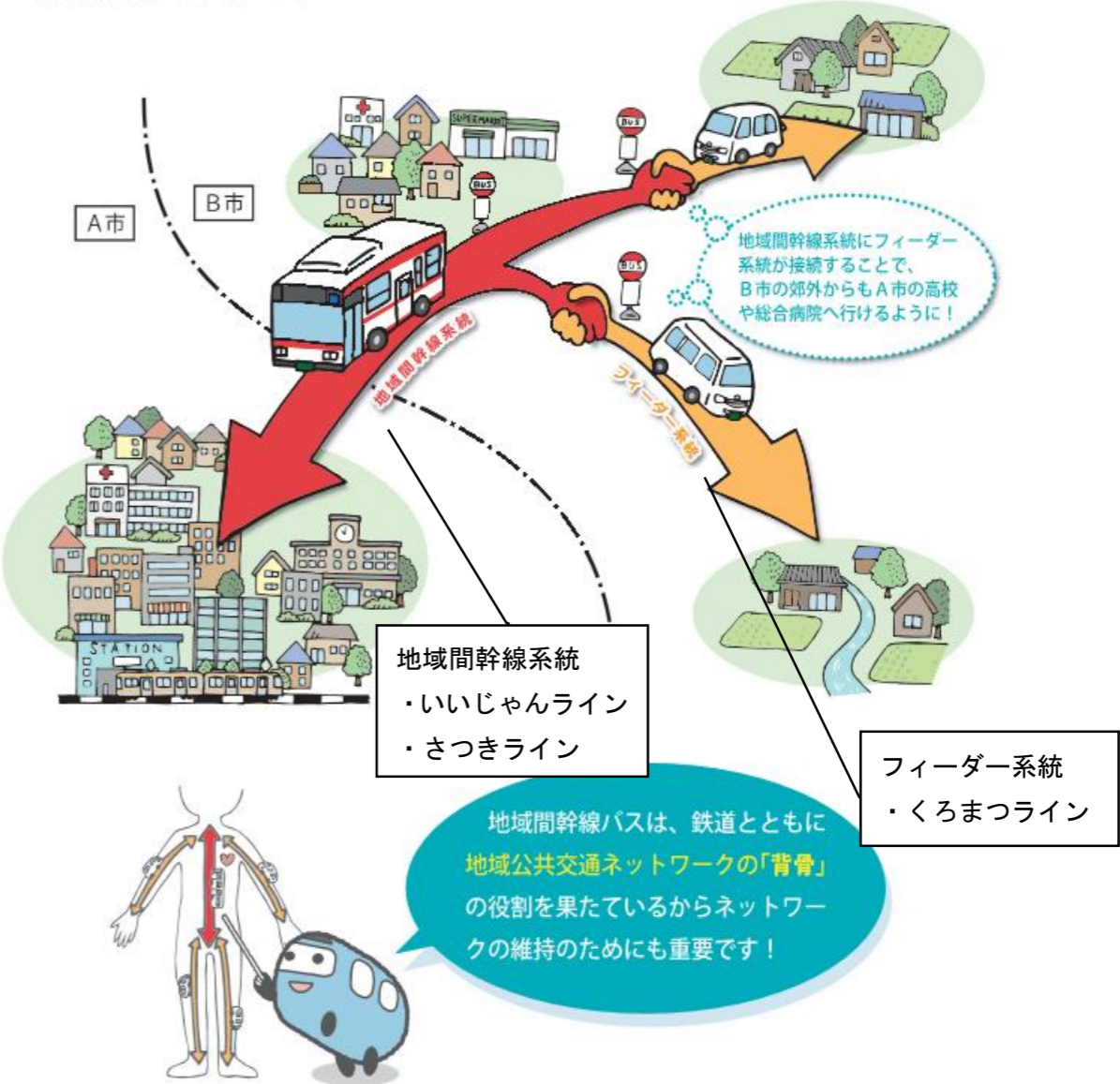
スケジュール（認定申請から補助金交付まで）

令和 6 (2024) 年度												令和 7 (2025) 年度											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
					事業終了		補助金交付申請		事業評価（一次評価）	事業評価（二次評価）国	交付決定及び額確定												
令和 6 (2024) 年度事業（前回申請の事業）																							
	計画別紙案作成	計画認定申請			計画認定	事業開始											事業終了		補助金交付申請		事業評価（一次評価）	事業評価（二次評価）国	交付決定及び額確定

公共交通会議開催
※計画別紙案を協議

公共交通会議開催
※前年度事業の事業評価(案)を協議

【地域間幹線バスのイメージ】



資料1-2

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: みよし市地域公共交通会議(R6.10月～R7.9月)

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名 等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。) を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A・ B・ C 評価 【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり 実施されなかった場合には、理 由等記載】	A・ B・ C 評価 【計画に位置付けられた定量的な 目標・効果が達成されたかを、目 標ごとに記載。目標・効果が達成 できなかった場合には、理由等を 分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記 載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果 を生活交通確保維持改善計画にどのように反映 させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載 すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
みよし市地域公共交通会 議	さんさんバス 拠点連携線 (いいじゃんライン)	【評価結果:期待する取組】 ・愛知県地域公共交通計画 に基づき、引き続き、地域間 の公共交通ネットワークの 確保維持に努められるととも に、「まもる」取組から「たか める」取組へのシフトにも意 識し、関係自治体・事業者等 とさらに連携し、取組が進む ことを期待します。 ・輸送量や収支率が低く、維 持が危ぶまれる地域間幹線 系統については、状況を注 視し、運行事業者や沿線自 治体等と連携した取組の実 施等、利用促進・系統維持 等に資する取組が実施され ることを期待します。	A 補助対象期間の開始日から、運 休や大幅な遅れもなく、所定の 事業計画どおりの運行が実施さ れた。	A ◎事業の目標・効果 目標利用者数 141,957人 利用者実績数 156,193人(達成) ・目標を達成できた。令和6年4月 以降の月別利用者数は前年同月 と比較して毎月増加し続けており、 バス年度においては前年度比＋ 9,000人増加した。	⑤のとおり目標は達成できたが、さらな る利用者の増加を目指し下記事項に 取り組む。 ・本路線と地域間幹線系統が結節する 商業施設において、尾三地区自治体 (豊明市、日進市、長久手市、東郷町、 みよし市)と交通事業者が連携した利 用促進イベント(バス車両展示、ワーク ショップ)を実施し、マイバス意識の醸 成を図る。
みよし市地域公共交通会 議	さんさんバス 三好黒笹線 (さつきライン)	【反映状況】 ・既存公共交通の利用が困 難な人の移動手段の確保す るための空きタクシーを活用 した事業を実施しました。 ・尾三地区自治体が連携し、 公共交通についての情報共 有や、課題について対応を 検討する会議を開催しまし た。また、尾三地区自治体 の他、商業事業者や運行事 業者と連携し、広域的な利 用促進イベントを実施しまし た。	A 補助対象期間の開始日から、運 休や大幅な遅れもなく、所定の 事業計画どおりの運行が実施さ れた。	A ◎事業の目標・効果 目標利用者数 140,000人 利用者実績数 154,872人(達成) ・目標を達成できた。令和6年4月 以降の月別利用者数は前年同月 と比較して毎月増加し続けており、 バス年度においては前年度比＋ 8,000人増加した。	・利用促進は、コミュニティバスのみな らず公共交通全体の課題であるため、 市内の公共交通事業者で組織される 事業者連絡会での意見交換を一層活 発化させ、利用促進イベントを効果的 に実施するほか、今般課題となってい る運転手不足解消に向けた連携事業 等も検討する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名：	みよし市地域公共交通会議
-------	--------------

評価対象事業名：	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
----------	-------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>さんさんバスの運行目的は、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 日常生活における移動手段の確保 (2) 交通弱者の社会参加の促進 (3) 市中心部や駅へのアクセス確保 (4) 地域間の交流促進 (5) 環境負荷の低減と交通の円滑化の促進 <p>であり、市内のどこに住んでいても容易に利用可能な利便性の高い路線網を構築し、市民の通勤・通学、通院、買い物・飲食など様々な移動を支えていく必要がある。そうした中、本路線は市の中心部の公共施設及び商業施設と北部の鉄道駅を結ぶ路線であることから、市民の通勤・通学や買い物等の需要としてだけでなく、市外からの商業施設等の利用者の需要にも応じた重要な路線ある。更には南部地域を運行している福田明知線と商業施設で接続し、南部の市民が公共交通を利用して北部及び鉄道駅に移動するために欠かすことのできない路線である。</p> <p>本市においても、高齢者人口は今後も増加していくことが避けられない状況であり、また、免許返納等による移動困難者の増加は今後も続くことが見込まれる。地域住民の移動手段を将来にわたって確保、維持し、みよし市の公共交通の目指す姿である「人とまちをつなぐ 快適交流都市 みよし」の実現を図るためには、本事業を維持することが必要不可欠である。</p>
-----------------------------	---

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: みよし市地域公共交通会議(R6.10月～R7.9月)

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名 等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を 受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり 実施されなかった場合には、理 由等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量的な 目標・効果が達成されたかを、目 標ごとに記載。目標・効果が達成 できなかった場合には、理由等を 分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記 載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果 を生活交通確保維持改善計画にどのように反映 させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載 すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
みよし市地域公共交通会 議	さんさんバス 福田明知線 (くろまつライン)	<p>【評価結果:期待する取組】</p> <p>・令和7年3月策定予定の次 期公共交通計画を基に、各 種の施策が有機的に連携し 実施され、地域にとって適切 な公共交通網の確保維持に 繋がることを期待します。</p> <p>・地域間幹線系統である 星ヶ丘・豊田線について、輸 送量が基準値の下限に近い 状況であるため、沿線市と 連携した利用促進の取組を 継続的に実施されることを期 待します。</p> <p>【反映状況】</p> <p>・令和7年3月に策定したみ よし市地域公共交通計画に 記載した公共交通の運行環 境に対応する取組として、既 存公共交通の利用が困難な 人の移動手段の確保するた めの空きタクシーを活用した 事業を実施しました。</p> <p>・星ヶ丘・豊田線が通る市町 を含めた近隣市町と連携し、 公共交通の利用促進イベン トを実施しました。</p>	A 補助対象期間の開始日から、運 休や大幅な遅れもなく、所定の 事業計画どおりの運行が実施さ れた。	A <p>◎事業の目標・効果</p> <p>目標利用者数 70,858人 利用者実績数 80,607人(達成)</p> <p>・目標を達成できた。令和6年4月 以降の月別利用者数は前年同月 と比較して毎月増加し続けており、 バス年度においては前年度比＋ 6,000人の増加があることや、乗継 ポイントにおいて、イオン三好ア イ・モールでの幹線への乗り継ぎ が乗継利用者全体の約98%を占 めることから、市中心部への移動 手段、幹線系統への乗継手段とし ての役割を果たすことができてい る。</p>	<p>⑤のとおり目標は達成できたが、さらなる 利用者の増加を目指し下記事項に 取り組む。</p> <p>・本路線と地域間幹線系統が結節する 商業施設において、尾三地区自治体 (豊明市、日進市、長久手市、東郷町、 みよし市)と交通事業者が連携した利 用促進イベント(バス車両展示、ワーク ショップ)を実施し、マイバス意識の醸 成を図る。</p> <p>・利用促進は、コミュニティバスのみな らず公共交通全体の課題であるため、 市内の公共交通事業者で組織される 事業者連絡会での意見交換を一層活 発化させ、利用促進イベントを効果的 に実施するほか、今般課題となってい る運転手不足解消に向けた連携事業 等も検討する。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名：	みよし市地域公共交通会議
-------	--------------

評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
----------	----------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>さんさんバスの運行目的は、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 日常生活における移動手段の確保 (2) 交通弱者の社会参加の促進 (3) 市中心部や駅へのアクセス確保 (4) 地域間の交流促進 (5) 環境負荷の低減と交通の円滑化の促進 <p>であり、市内のどこに住んでいても容易に利用可能な利便性の高い路線網を構築し、市民の通勤・通学、通院、買い物・飲食など様々な移動を支えていく必要がある。そうした中、本路線は市南部地域を網羅し、鉄道や地域間幹線となる路線がない地域において、商業施設等が集積する市中心部への移動手段、また、鉄道駅のある北部地域を通る地域間幹線の結節点(乗継ポイント)までの移動手段として必要な路線となっている。</p> <p>本市においても、高齢者人口は今後も増加していくことが避けられない状況であり、また、免許返納等による移動困難者の増加は今後も続くことが見込まれる。地域住民の移動手段を将来にわたって確保、維持し、みよし市の公共交通の目指す姿である「人とまちをつなぐ 快適交流都市 みよし」の実現を図るためには、本事業を維持することが必要不可欠である。</p>
-----------------------------	--

令和 7 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
概要（全体）

みよし市地域公共交通会議

平成 2 1 年 4 月 1 日設置

令和 7 年 3 月 みよし市地域公共交通計画改定
(計画期間：令和 7 年 4 月～令和 1 2 年 3 月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・ 地域間幹線系統確保維持国庫補助金
- ・ 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

【みよし市の概要】

- 1 人口：61,321人（令和8年1月1日現在）
- 2 特性：市北部に名鉄豊田線三好ヶ丘駅、黒笹駅が所在
名古屋市と豊田市の間に位置し、南北に長い地形



【公共交通の目指す姿】

人とまちをつなぐ 快適交流都市 みよし

【基本目標Ⅰ】

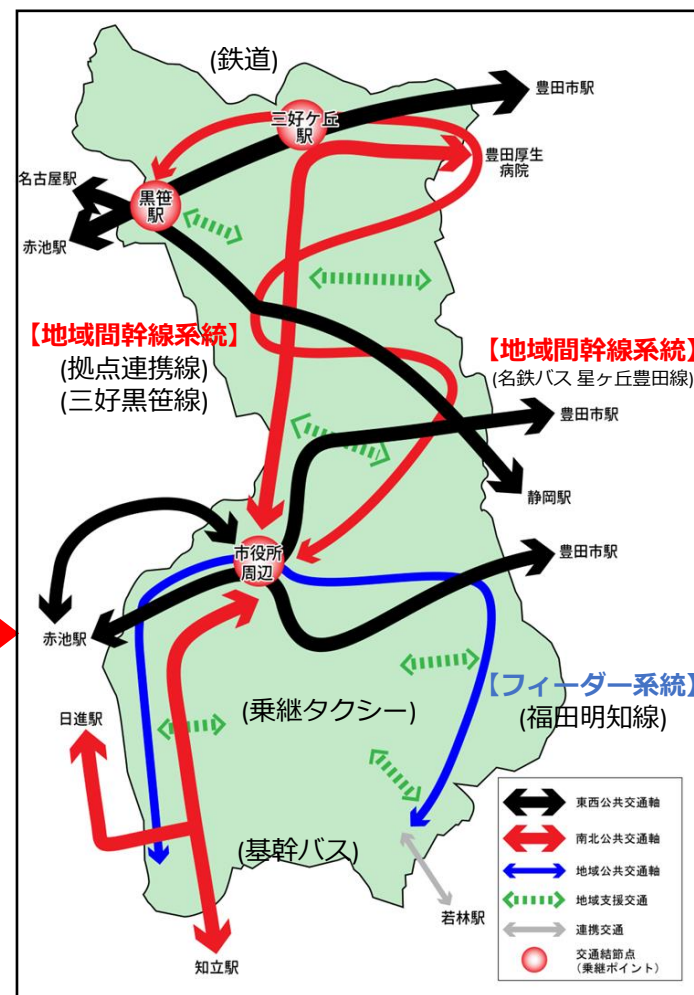
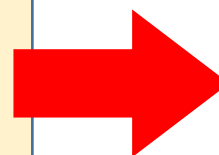
持続的な公共交通の運行を目指すため、利用促進策を推進します

【基本目標Ⅱ】

公共交通の重要性を理解し、みんなで育む意識を醸成します

【基本目標Ⅲ】

地域環境への配慮や変化する公共交通の運行環境に対応します



①利用促進イベントの実施

- ◎さんさんバスの日イベントの実施
 - ・3月の第3日曜日をさんさんバスの日と制定し、商業施設でイベントを実施
 - ・R7.3月:イベント参加者465人
 - ・バス車両展示、抽選会、ワークショップを実施
 - ・マイバス意識の醸成及び利用機会の創出を達成
- ◎バスフェスティバルの実施
 - ・尾三地区自治体、交通事業者及び商業施設が連携した広域的なPRイベントを実施
 - ・R7.2月:イベント参加者2000人（推計）
 - ・バス車両展示、制服体験、抽選会、ワークショップを実施
- ◎さんさんバス乗り方教室の実施
 - ・中部小学校2年生37人に生活科の学習活動の一環として、生活を支える公共交通の役割への気づきの機会として実施
 - ・さんさんバスの役割、車両の装備等の説明、乗車体験、質疑応答を実施
- ◎産業フェスタ2024へのブース出展
 - ・ワークショップ、啓発品配布を実施

②待合環境の整備

- ◎快適にバスを利用できるよう、乗車数が多く歩道部分を確保できるバス停に
雨よけを設置

【参考】

既に整備済のバス停(R5利用実績順に表記)

①イオン三好 アイ・モール	67,622人
②三好ヶ丘駅	33,124人
③豊田厚生病院	33,112人
④ベイシア三好店	28,615人
⑤黒笹駅	12,512人
↓	
⑨三好丘小学校(R5整備)	9,436人
⑫カネヨシプレイス東(R6整備)	5,456人
⑭カネヨシプレイス西(R6整備)	4,621人
⑳苅生新田(R7整備)	3,540人

【参考】

R6:カネヨシプレイス西バス停



③おでかけタクシー運行事業

◎ 運行期間

令和 7 (2025) 年 4 月 1 日から
土日祝日を含む毎日

◎ 対象者

バス停までの移動もしくはバスに乗車
することが困難な人のうち、下記のい
ずれかに当てはまる人

- ・ 65 歳以上の高齢者、障がい者、要介
護・要支援認定者、妊産婦

◎ 対象区域及び乗降可能場所

対象区域：市内全域及び豊田厚生病院
乗降可能場所：指定なし

◎ 利用料金

300 円

◎ 利用実績

(期間)

令和 7 年 4 月から令和 7 年 10 月まで
(利用回数)

3, 497 回

⇒バスの利用が困難で外出を控えてい
た方の外出促進及び移動需要に応える
ことができた。

おでかけタクシー運行事業を実施しています！

バスの利用が困難(大変・難しい・つらい)で外出を控えている市民の新たな交通手段を提供するた
め、空きタクシーを活用して目的地まで移動するサービスを実施しています。

対象

市内在住のバスの乗車やバス停までの移動が困難であり、
1 人でタクシーに乗車できる人のうち、以下のいずれかに当てはまる人

- ・ 65 歳以上の高齢者
- ・ 障がい者等^{※1}
- ・ 要介護認定者、要支援認定者等^{※2}
- ・ 妊産婦^{※3}

※1 障がい者でなくても指定難病と診断された方は対象とする。

※2 介護予防・日常生活支援総合事業の対象者を含む。

※3 妊娠中または出産後1年以内

※原則付添人は1人に限りますが、妊産婦のことは、付き添い人と別に同乗可



期間

令和7(2025)年4月1日から毎日(土日祝含む)

利用可能時間

午前10時から午後5時まで

金額

300 円(現金のみ)

区域

市内全域及び豊田厚生病院



利用方法

※タクシーの空車状況により、予約ができない場合があります。



利用希望日の前日または当日に、バスの利用が困難な理由と該当する対象
者の種類を明らかにして、指定のタクシー事業者へ電話



乗車時に対象者であることを証明できるものを提示してください。(マイナ
ンバーカード、運転免許証、運転経歴証明書、障がい者手帳、介護保険証、母子
手帳など)



降車時に300円(現金のみ)をお支払いください。

タクシー事業者連絡先

- ・ 愛知つばめ交通株式会社 0561-32-0123
- ・ 名鉄東部交通株式会社 0565-32-1541

【市ホームページ】



お問合せ先:みよし市企画政策課 0561-32-8005

評価指標	数値目標	実績	達成状況 (達成率)	考察
公共交通 年間利用者数	3,170,000人	2,724,405人 (R6年度)	未達成 (85.9%)	新型コロナウイルス感染症の影響により減少した利用者が徐々に増加している。
さんさんバス 年間利用者数	318,000人	379,277人 (R6年度) 391,672人 (バス年度R7)	達成 (119.3%) 達成 (123.2%)	路線再編による増便、ルート見直しやコロナの5類移行、65歳以上の無償化により、利用者数は過去最大となった。
バス停・乗降場の 行き先案内や時刻 表の見やすさの不 満割合	現況値未満 (H30 : 8.0%)	9.9% (R6年度)	未達成	路線再編により、路線数が増加し、行き先案内などが複雑となったため、不満が微増したと考えられる。
乗り方教室の 実施	年間3回以上	4回 (R6年度)	達成 (133.3%)	利用促進イベントに合わせ2回、市内小学校の生活科授業において2回実施した。

※数値目標は、令和7年度時点の結果目標

評価指標	数値目標	実績	達成状況 (達成率)	考察
さんさんバス いいじゃんライン (幹線) 年間利用者数	141,957人	156,193人 (バス年度R7) 152,014人 (R6年度)	達成 (110.0%) 達成 (107.1%)	目標を達成できた。 令和6年4月以降の 月別利用者数は前年 同月と比較して毎月 増加し続けており、 バス年度においては 前年度比+9,000人 増加した。
さんさんバス さつきライン (幹線) 年間利用者数	140,000人	154,872人 (バス年度R7) 150,273人 (R6年度)	達成 (110.6%) 達成 (107.3%)	目標を達成できた。 令和6年4月以降の 月別利用者数は前年 同月と比較して毎月 増加し続けており、 バス年度においては 前年度比+8,000人 増加した。

評価指標	数値目標	実績	達成状況 (達成率)	考察
さんさんバス くろまつライン (フィーダー) 年間利用者数	70,858人	80,607人 (バス年度R7) 76,990人 (R6年度)	達成 (113.8%) 達成 (108.7%)	目標を達成できた。 令和6年4月以降の 月別利用者数は前年 同月と比較して毎月 増加し続けており、 バス年度においては 前年度比+6,000人 の増加があることや、 乗継ポイントにおい て、イオン三好ア イ・モールでの幹線 への乗り継ぎが乗継 利用者全体の約98% を占めることから、 市中心部への移動手 段、幹線系統への乗 継手段としての役割 を果たすことができ ている。

- ① 公共交通の利用者数が目標に達しなかった。
⇒ **利用者増に向けた公共交通利用促進策を実施**

【取組 1】 乗り方教室等の更なる実施

市内の各イベントにおいて乗り方教室、出前講座等を実施し、マイバス意識を醸成することで乗車機会の創出を図り、家族での利用者数を増加させる。

【取組 2】 広域連携イベントの実施

尾三地区自治体、交通事業者及び商業施設が連携した広域的な公共交通のPRイベントを実施することで、公共交通全体の利用促進を図る。

- ② さんさんバスのバス停・乗降場の行き先案内や時刻表の見やすさの不満割合の減少を目標としていたが達成しなかった。
⇒ **バスロケーションシステムの活用促進及び情報提供を行う。**

【取組 1】 イベント等の実施に合わせた利用案内の実施

システム利用を促進するため、イベント等の実施に合わせて利用案内を実施する。

【取組 2】 バス車両等へのわかりやすい表示及び情報提供

車両等に利用者が公共交通を利用するうえで、必要な情報を受け取れるような表示を実施する。

- ③ さんさんバスの年間利用者数は幹線系統及びフィーダー系統ともに数値目標を達成した。
⇒ **さらなる利用者の増加を目指す。**

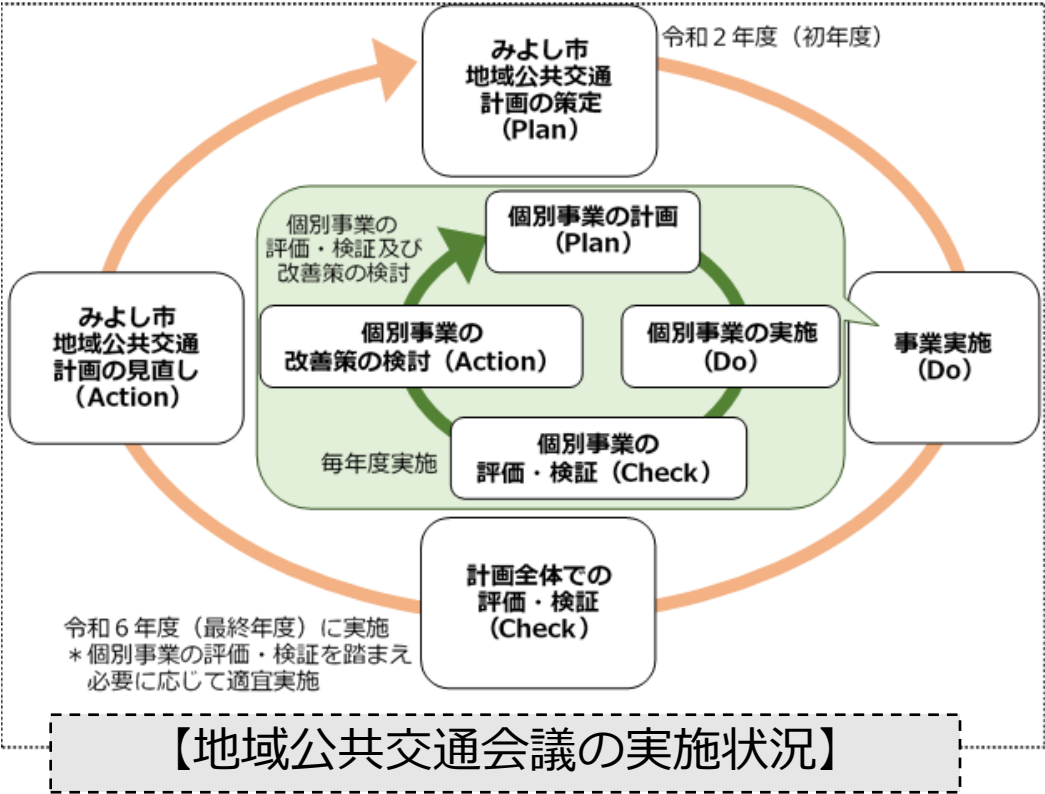
【取組 1】 マイバス意識の醸成

本路線と地域間幹線系統が結節する商業施設において、尾三地区自治体(豊明市、日進市、長久手市、東郷町、みよし市)と交通事業者が連携した利用促進イベントを実施する。

【取組 2】 公共交通事業者との連携

市内の公共交通事業者で組織される事業者連絡会での意見交換を一層活発化させ、利用促進イベントを効果的に実施するほか、今般課題となっている運転手不足解消に向けた連携事業等も検討する。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況	今後の対応方針
前 回	<ul style="list-style-type: none">・令和7年3月策定予定の次期公共交通計画を基に、各種の施策が有機的に連携し実施され、地域にとって適切な公共交通網の確保維持に繋がることを期待します。・地域間幹線系統である星ヶ丘・豊田線について、輸送量が基準値の下限に近い状況であるため、沿線市と連携したりよう促進の取組を継続的に実施されることを期待します。	商業施設や公共施設等において 利用促進イベント を昨年度に引き続き 実施 したほか、安全対策、利用促進のため、市内小学校を対象に 乗り方教室 を実施した。	本路線と地域間幹線系統が結節する商業施設や市内の各イベント等において、利用促進イベント(バス車両展示、乗り方教室、出前講座、ワークショップ)を実施し マイバス意識の醸成を図る 。
		既存公共交通の利用が困難な人の移動手段の確保 するための空きタクシーを活用した デマンド型移動サービス事業 を実施した。	バスの利用が困難な市民の移動手段として、ニーズに対しての既存の資源を活用できていることなども踏まえ、 引き続き事業を実施 をしていく。
前々回	<ul style="list-style-type: none">・「さんさんバスの日」の制定とそれに併せた利用促進イベントや乗り方教室、商業施設を会場とした公共交通利用促進イベントの開催等、公共交通の利用促進と関心喚起につながる取り組みを実施し、継続していることを評価します。・待合環境は重要であるため、雨よけやソーラーライト、また、交通結節点における乗換案内標識の設置など、引き続き、待合環境が整備されることを期待します。	商業施設や公共施設等において 利用促進イベント を昨年度に引き続き 実施 したほか、安全対策、利用促進のため、市内小学校を対象に 乗り方教室 を実施した。	本路線と地域間幹線系統が結節する商業施設や市内の各イベント等において、利用促進イベント(バス車両展示、乗り方教室、出前講座、ワークショップ)を実施し マイバス意識の醸成を図る 。
		さんさんバスバス停において、 雨よけ・ベンチ及びソーラーライトの設置 を行った。	今後も待合環境の整備として、雨よけ・ベンチの設置を計画的に進めていき、 利用促進に繋げていく 。



- (令和6年度)
- 第1回(5/10)
議題：R6事業計画、交通計画別紙について
おでかけタクシー実証実験について
- 第2回(9/18)
議題：交通計画改定に係るアンケート結果について
- 第3回(11/11)
議題：みよし市地域公共交通計画素案について
- 第4回(12/20)
議題：みよし市地域公共交通計画素案について
確保維持事業の事業評価について
- 第5回(2/26)
議題：みよし市地域公共交通計画改定について
地域公共交通計画別紙について

- (令和7年度)
- 第1回(6/9)
議題：R7事業計画、交通計画別紙について
さんさんバスバス停の一部移設について
- 第2回(11/26)
議題：おでかけタクシー運行事業の報告について
交通需要調査の結果について
- 第3回(1/28)
議題：確保維持事業の事業評価について
デマンド型交通の実証実験について

中 運 交 企 第 1 6 3 号
令 和 7 年 3 月 27 日

愛知県公共交通協議会
会長 九鬼 令和 殿

中 部 運 輸 局 長
(公 印 省 略)

令和5・6年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について(通知)

日頃より国土交通行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先般報告された標記事業にかかる一次評価について、これを基に二次評価を行ったため、別紙のとおり通知します。

なお、二次評価結果は協議会等において共有するとともに、次年度以降の計画等に反映いただくようお願いします。

【問合せ先】
中部運輸局交通政策部 交通企画課
TEL:052-952-8006

(別紙)中部運輸局二次評価結果 令和7年3月27日付け中運交企第163号通知

自治体・協議会名	愛知県公共交通協議会
評価対象事業	地域間幹線系統

二次評価結果

評価できる取組

- ・地域間幹線系統を含む地域公共交通の確保維持に向け、「あいち交通ビジョン」と連携しながら、令和6年6月に「愛知県地域公共交通計画」を策定されたことを確認しました。
- ・地域間幹線系統の確保維持に向けて、愛知県独自の補助金の拡充や地域内交通の最適な交通モードへの転換促進を検討していることを確認しました。
- ・愛知県・市町村人口問題対策検討会議において、関係者と連携し人口減少下における公共交通の課題と対応について協議したことを確認しました。
- ・瀬戸市においてAIオンデマンド交通の社会実装に向けた実証実験を、東三河地域において東三河地域MaaSの社会実装に向けた実証実験を、地域と連携して実施したことを確認しました。

期待する取組

- ・愛知県地域公共交通計画に基づき、引き続き、地域間の公共交通ネットワークの確保維持に努められるとともに、「まもる」取組から「たかめる」取組へのシフトにも意識し、関係自治体・事業者等とさらに連携し、取組が進むことを期待します。
- ・愛知県独自の補助金の拡充や地域内交通の最適な交通モードへの転換促進に関する検討が、より具体化することを期待します。
- ・AIオンデマンド交通の社会実装に向けた実証実験等の成果について、効果を検証し、他の地域にも展開する等、より効果の拡大に繋がる取組がなされることを期待します。
- ・輸送量や収支率が低く、維持が危ぶまれる地域間幹線系統については、状況を注視し、運行事業者や沿線自治体等と連携した取組の実施等、利用促進・系統維持等に資する取組が実施されることを期待します。

中運交企第163号
令和7年3月27日

みよし市地域公共交通会議
会長 松本 幸正 殿

中部運輸局長
(公印省略)

令和5・6年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について(通知)

日頃より国土交通行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先般報告された標記事業にかかる一次評価について、これを基に二次評価を行ったため、別紙のとおり通知します。

なお、二次評価結果は協議会等において共有するとともに、次年度以降の計画等に反映いただくようお願いいたします。

【問合せ先】
中部運輸局交通政策部 交通企画課
TEL:052-952-8006

(別紙) 中部運輸局二次評価結果 令和7年3月27日付け中運交企第163号通知

自治体・協議会名	みよし市地域公共交通会議
評価対象事業	地域内フィーダー系統

二次評価結果

評価できる取組

- ・昨年度に引き続き、雨除け・ベンチ・ソーラーライトの整備等、バス停の待合環境整備を継続的に実施していることを確認しました。
- ・公共交通の利用促進に向け、近隣自治体や交通事業者と連携した広域的なイベント「バスフェスティバル」を実施したこと、これを継続的に実施する予定であることを評価します。
- ・上記のほか、「さんさんバスの日」の設定やそれに合わせたイベントの実施等、継続的に公共交通に関する啓発や利用促進に取り組んでいることを評価します。
- ・昨年度に引き続き「おでかけタクシー」の実証実験を実施するにあたり、既存交通手段との役割分担等も意識しながら、バスの乗車が困難な方の外出促進及び移動需要の把握に繋げられたことを評価します。

期待する取組

- ・今後も引き続き、各種イベントや乗り方教室の開催等、公共交通の啓発や利用促進に取り組まれるとともに、参加人数などアウトカム指標も参考に、より効果的な取組がなされることを期待します。
- ・令和7年3月策定予定の次期公共交通計画を基に、各種の施策が有機的に連携し実施され、地域にとって適切な公共交通網の確保維持に繋がることを期待します。
- ・地域間幹線系統である星ヶ丘・豊田線について、輸送量が基準値の下限に近い状況であるため、沿線市と連携した利用促進の取組を継続的に実施されることを期待します。

令和8(2026)年度みよし市地域公共交通会議 予算(案)

歳入 33,496,540 円

歳出 33,496,540 円

【歳入】

(単位：円)

款	項	目	予算額	前年度	備 考
1 負担金	1 負担金	1 負担金	1,540	0	振込手数料 2回×770円
2 補助金	1 補助金	1 補助金	33,495,000	0	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金 21,867,000円 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 4,128,000円 公有民営方式車両購入費国庫補助金相当額 7,500,000円
3 繰越金	1 繰越金	1 繰越金	0	0	
4 諸収入	1 諸収入	1 諸収入	0	0	
歳入合計			33,496,540	0	

【歳出】

(単位：円)

款	項	目	予算額	前年度	備 考
1 事業費			33,496,540	0	
	1 事業費	1 事業費	33,495,000	0	地域公共交通確保維持事業【地域間幹線系統】 21,867,000円（交通事業者へ） 地域公共交通確保維持事業【フィーダー系統】 4,128,000円（交通事業者へ） 公有民営方式車両購入費国庫補助金相当額 7,500,000円（市へ）
	2 事務費	1 事務費	1,540	0	振込手数料 2回×770円
	3 会議費	1 会議費	0	0	
	4 交付金	1 交付金	0	0	
2 予備費	1 予備費	1 予備費	0	0	
歳出合計			33,496,540	0	

デマンド型交通の実証実験について（事業概要案）

1 事業名

デマンド型交通実証実験事業

2 目的

みよし市地域公共交通計画の基本方針である「人とまちをつなぐ 快適交流都市 みよし」の実現のため、デマンド型交通の実証実験を行うことで、公共交通の不便な地域における移動手段の確保と地域交通網の補完を図り、本市のデマンド型交通の有効性を検証することを目的とします。

3 事業内容

乗合いのデマンド型タクシーを利用し、公共交通の不便な地域の決められた停留所から利用ニーズの高い目的地まで定額で乗降可能な移動サービスを実施する。

4 実施期間

令和 8 (2026) 年 4 月から 6 か月間

5 利用可能時間

午前 6 時から午前 9 時まで及び午後 5 時から午後 8 時までの平日（祝日を含む）

＜予約方法＞

利用日の 1 週間前から電話またはアプリで受け付けを行い、当日の 30 分前まで予約可能とする。

予約可能時間は午前 5 時から午後 9 時までとする。

6 対象者

指定なし

※ 利用者は事前に電話またはアプリでの予約をする必要がある。

7 運行方式

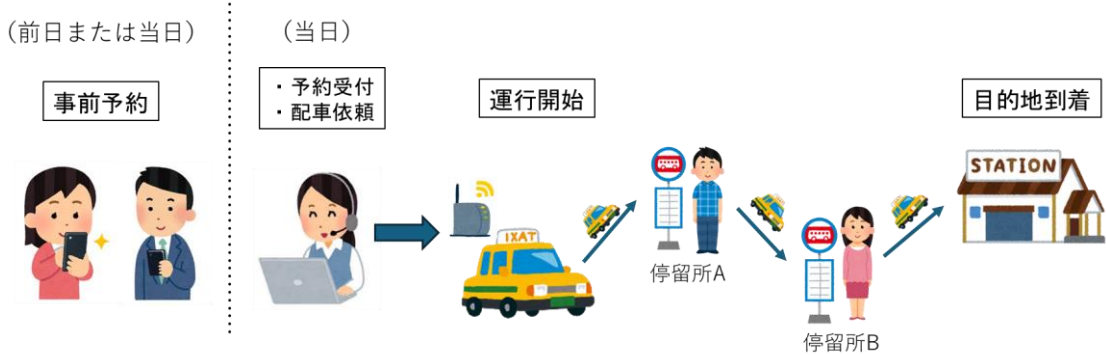
あざぶの丘地域および緑 6 丁目地域内に複数の停留所を設置し、利用者の予約に応じて車両が乗合いで停留所を巡回しながら、三好ヶ丘駅の停留所との間を運行します。

8 利用者負担額

1 人 1 乗車 1 0 0 円

9 利用方法

- （１）利用者は電話またはアプリで予約をする。
- （２）利用者は予約の際に氏名、利用日、乗車人数、乗降場所、連絡先をオペレーターに伝える。
- （３）オペレーターは、効率的な運行を行うため、利用者からの予約状況を基に乗合いの調整を行い、最適なルートを検討する。
- （４）指定された乗降場から目的地までの移動サービスを実施する。（予約状況によっては乗合いになる。）
- （５）利用者は負担額を支払い、運転手から依頼されたアンケートを回答する。



10 効果検証(アンケートによる)

運転手は、利用者が乗車する際に市が作成したアンケートへの協力依頼を行い、降車時に回収する。

- （１） 利用実態調査…利用特性、導入効果(外出頻度、回数)、他公共交通機関への影響等を検証
- （２） 利用意向調査…サービス満足度、必要性、改善事項等を検証

※事業者記入欄あり（利用者の状況により、聞き取り回答による対応）

11 周知方法

市ホームページ、 広報みよし、 報道提供等

12 対象区域図



13 実施スケジュール案

内容	実施時期
地域公共交通会議で内容協議	令和 8 年 1 月
道路運送法の手続き	令和 8 年 2 ～ 3 月
事業者決定	令和 8 年 4 月
広報誌やH P への掲載等による広報	令和 8 年 4 ～ 9 月
実証実験の実施、アンケートの配布・回収	令和 8 年 4 ～ 9 月
アンケートの集約・分析	令和 8 年 9 月～

14 実証実験の実施後

実証実験終了後、利用者数、乗降場所・時間帯、アンケート調査結果を基に市民のニーズや既存公共交通機関への影響等について分析・評価を行う。また、それらの結果を踏まえ、本格導入について検討していく。

協議事項　さんさんバス「乗継タクシー乗降場」の新設について

「三好ヶ丘駅」から「トヨタスポーツセンター」間の乗継タクシー運行区間の新設

- ・目的 トヨタスポーツセンターは、今後のリニューアルにより、これまで以上に多くの市民が利用することが見込まれるが、当該施設へ直接アクセスできる公共交通機関がないため、市民が安全かつ安心して利用できるようにするために整備する。
- ・路線 乗継タクシー
- ・変更予定年月日 令和8(2026)年4月1日

路線名	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点連携線（いいじゃんライン） 「三好ヶ丘駅」バス停～「トヨタスポーツセンター（新設）」 0.8km 新設 ・三好黒笹線（さつきライン） 「三好ヶ丘駅」バス停～「トヨタスポーツセンター（新設）」 0.8km 新設
乗継タクシー乗降場	1 か所新設 トヨタスポーツセンター
車両	乗継タクシー
運賃	1 乗車 1 0 0 円



○乗継タクシー乗降場のイメージ案



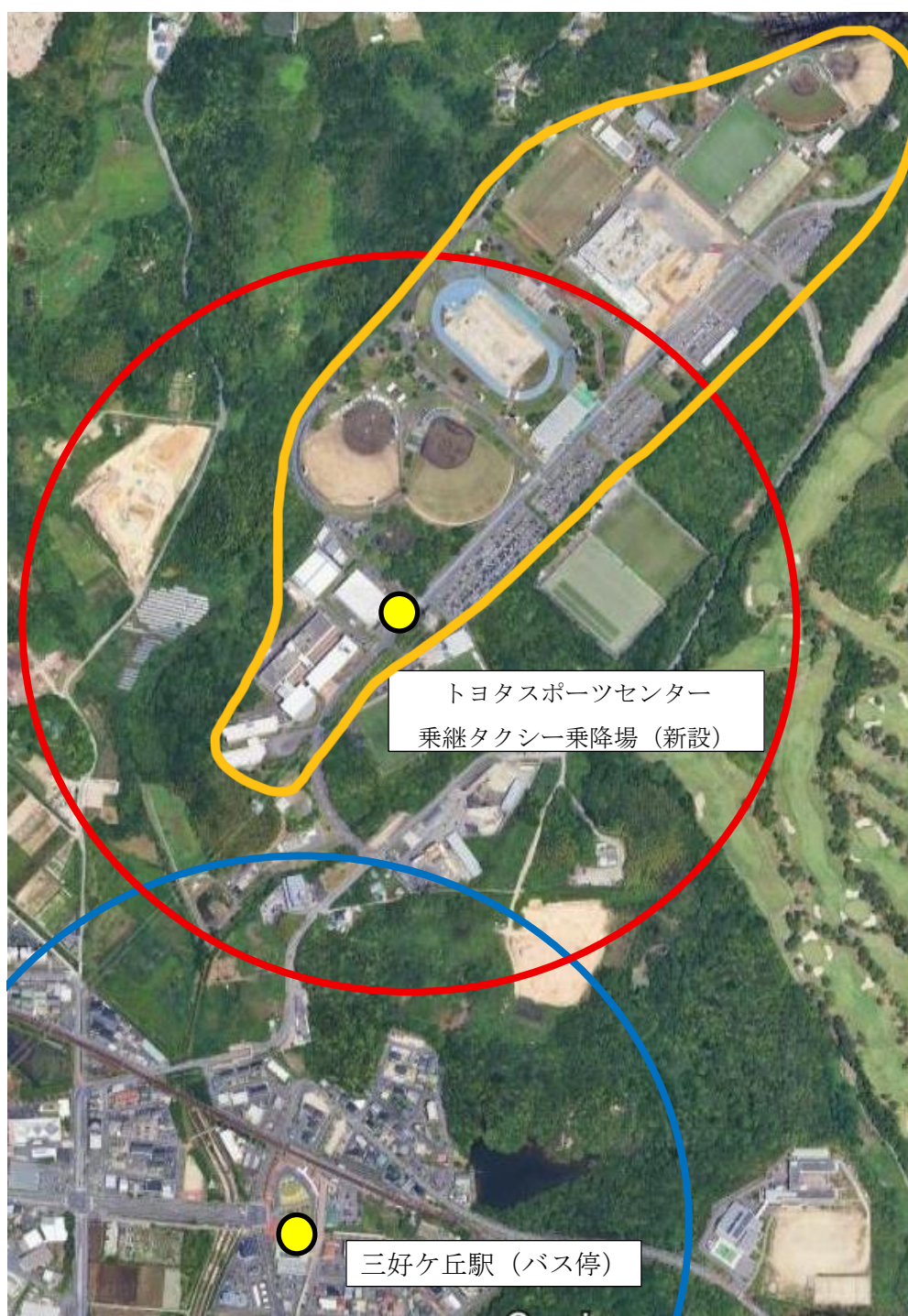
○事前確認事項

1 / 8	トヨタ自動車(株)	調整済
1 / 19	豊田警察署	調整済
1 / 19	愛知運輸支局	調整済

○運行開始までのスケジュール

1月28日	地域公共交通会議
3月1日	広報掲載予定
4月1日	運行開始予定

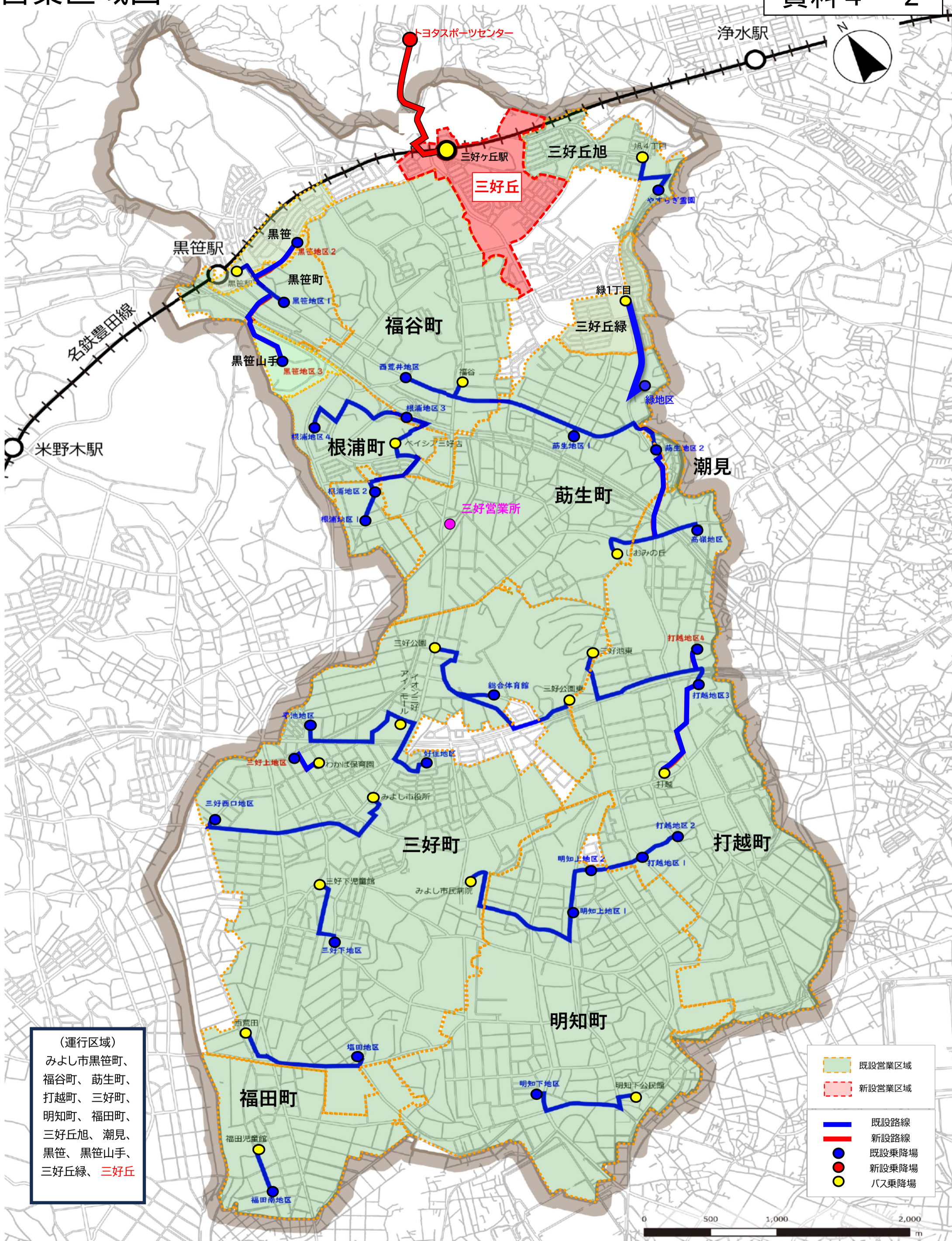
「トヨタスポーツセンター」乗継タクシー乗降場新設予定箇所



- : 「トヨタスポーツセンター（新設）」乗継タクシー乗降場から半径500メートル
- : 「三好ヶ丘駅」バス停から半径500メートル
- : 該当地域

営業区域図

資料 4 - 2






公共交通利用促進イベントの実施について

【実施報告】

①




内 容	産業フェスタみよし2025へのブース出展
日 時	令和7(2025)年11月2日(日) 午前9時20分から午後2時30分まで
場 所	みよし市緑と花のセンター さんさんの郷
来場者数	約100人以上 ブース及び車両展示への来場者数
実 施 状 況	
【概要】車両展示、ワークショップ(塗り絵、スタンプラリー)、啓発品配布(のりものカード等)	
  	

②




内 容	バスフェスティバル
日 時	令和8(2026)年1月25日(日)午前10時から午後3時まで
場 所	イオン三好ショッピングセンター 1階通路スペース及び平面駐車場
主 催	尾三地区自治体(豊明市、日進市、長久手市、東郷町、みよし市)
協 力	・イオン三好ショッピングセンター、名古屋鉄道㈱、愛知高速交通㈱ ・コミュニティバス運行事業者(愛知つばめ交通㈱、名鉄バス㈱、瀬戸自動車運送㈱)
目 的	・尾三地区自治体、交通事業者及び商業施設が連携した広域的なPRイベントを実施し、公共交通全体の利用促進を図るほか、広域バスマップ等を掲示し、公共交通機関を乗り継ぐことで尾三地区内の移動が可能であることを周知する。 ・バス車両を展示するほか、写真撮影や制服体験を実施し、マイバス意識の醸成を図る。 ・抽選会やワークショップ(缶バッジ作成等)を実施し、公共交通への関心を高める。
実 施 状 況	
【概要】ワークショップ(ぬりえ作成、缶バッジ作成)、バス車両の展示	
  	

【実施予定】(参考として以下全て、昨年度実施の写真を掲載しています)

①

内 容	乗り方教室の実施
日 時	令和8(2026)年2月9日(月)及び10日(火)
場 所	みよし市役所
対 象	みよし市立中部小学校 2年生
協 力	愛知つばめ交通株式会社(さんさんバス運行事業者)
目 的	・学習活動の一環として、学校の周りを巡回しているさんさんバスの見学を行うことにより、自分たちの生活を支える公共交通の役割に気づく機会とする。
実 施 状 況	
【概要】さんさんバスの役割、車両の装備等の説明、乗車体験、質疑応答を実施。	
  	

②

内 容	「さんさんバスの日」利用促進イベント
日 時	令和8(2026)年3月15日(日)午前10時から午後3時まで
場 所	イオン三好ショッピングセンター 1階通路スペース及び平面駐車場
主 催	みよし市
協 力	イオン三好ショッピングセンター、愛知つばめ交通㈱
目 的	・令和4(2022)年度に「さんさんバスの日」と制定した3(サン)月の第3(サン)日曜日(Sunday)にイベントを実施することで、さんさんバスの認知度向上を図る。 ・啓発品配布、抽選会等を実施し、マイバス意識のほか公共交通への関心を高める。
実 施 状 況	
【概要】ワークショップ(缶バッジ作成、抽選会、ぬりえ作成)	
  	

「さんさんバスの日」イベント 実施概要案

1 目的

- (1) 令和 4 (2022) 年度に「さんさんバスの日」と制定した 3 月の第 3 ^{サン}日曜日^{サン Sunday}にイベントを実施することで、さんさんバスの認知度向上を図る。
- (2) さんさんバス利用者の乗車を無料にする日をつくることで、今まで利用したことがない人の利用機会を創出し、利用者増加を図る。
- (3) バス車両の展示やワークショップを実施し、マイバス意識の醸成を図り、公共交通への関心を高める。

2 実施日

令和 8 (2026) 年 3 月 15 日 (日) 午前 10 時から午後 3 時まで

3 実施場所

イオン三好ショッピングセンター 平面駐車場、店内通路スペース (ナビィのパン前)

4 連携機関

- (1) 主催 みよし市
- (2) 協力 イオン三好ショッピングセンター、愛知つばめ交通株式会社 (さんさんバス運行事業者)、株式会社名古屋グランパスエイト、トヨタヴェルブリッツ

5 実施内容

- (1) さんさんバス車両展示 (乗車体験や写真撮影も自由に可能)
- (2) ワークショップ (缶バッジ作成、ぬりえ)
- (3) 抽選会
- (4) 啓発品配布
のりものカードなどの啓発品を配布するほか、さんさんバスに乗車して来場した人にコラボ商品を配布予定
- (5) さんさんバス利用者の無料乗車
イベント当日は全てのさんさんバス利用者が無料で乗車可能とする。
※利用実績に基づき本市から運行事業者へ助成金を支出するため、運賃体系に変更なし

6 周知方法

市ホームページ、広報誌、SNS、小中学校へのタブレット配信、報道提供など